

会 議 録

会議の名称	平成28年度第1回茨木市産業振興アクションプラン推進委員会 補助金審査部会
開催日時	平成28年4月21日(木) (午前・ 午後) 15時00分 開会 (午前・ 午後) 16時30分 閉会
開催場所	茨木市役所 南館8階 中会議室
議長	野口 義文 氏 (立命館大学産学官連携戦略本部)
出席者	野口義文氏 (立命館大学 産学官連携戦略本部)、小牧義昭氏 (北おお さか信用金庫)、伊津田崇氏 (中小企業診断士)、山田理香氏 (公募市民) 【4人】
欠席者	辻田素子氏 (龍谷大学経済学部教授) 【1人】
事務局職員	徳永商工労政課長、吉田商工労政課課長代理、 武部商工労政課職員、石原商工労政課職員 【4人】
開催形態	一部非公開
議題(案件)	(1) 茨木市地域魅力アップイベント創出育成事業補助金趣旨説明 (2) 部会長・副部会長の選出 (3) 会議の公開について (4) 応募団体プレゼンテーション及び審査
配布資料	・資料1 茨木市地域魅力アップイベント創出育成事業補助金募集要領 ・資料2 茨木市地域魅力アップイベント創出育成事業の選考について ・資料3 茨木市地域魅力アップイベント創出育成事業 審査基準及び 配点表

議事の経過

1 開会

事務局：(開会のあいさつ)

2 趣旨説明

事務局：(資料1、資料2、資料3説明)

3 部会長・副部会長選出

事務局：部会長に野口義文氏を、副部会長に小牧義昭氏を推薦
(異議なし)

4 会議の公開について

事務局：①本部会について

原則公開とし、市民等の傍聴を認める。ただし、申請案件の審査に関する部分は、非公開とする。(※茨木市審議会等の会議の公開に関する指針第3より)

②議事録について

公開部分については、市のホームページ等で公開する。ただし、内容は要約したものとし、個々の名前は記載しない。委員名簿は公開する。

(異議なし)

5 応募団体プレゼンテーション及び審査

(1) 茨木音楽祭(以下申請者1)から事業概要およびアピールポイントについてプレゼンテーションがあった。

<質疑応答>

A委員：今回8回目ということだが、コンセプトにある、より親しみやすいイベントにしていきたいというのは具体的にどういうことか。また、今後の発展性はどのように考えているのか。

申請者1：音楽というものはもともと親しみやすいものであるが、ライブやコンサートは有料であったり、会場に行かないと行けなかったり、なかなか行きづらい人もいます。我々は街を会場に見立てて、どこに行っても音楽に触れられるようにすることで親しみやすくしている。

今後の発展性については、毎年エリアを拡大していくことを考えている。物理的な限界はあると思うが、地域の人に協力してもらってエリアを拡大していきたいと考えている。今までやってきて幸いなことに騒音の苦情はほとんどなく、地域の方は協力的である。今後はもっと会場としてお店を提供してもらい、地域のお店と一緒に発展していけたらと考えている。

B委員：今後の課題は広告・協賛費の拡充であると記載があるが、計画書では平行値である。アップするような数値目標はあるのか、数値目標がなければ具体的に説明していただきたい。

申請者1：今年度も昨年度と比較して、微増となっている。これまでは、茨木市内の事業所に声をかけてきたが、今年から市外の企業にも声をかけるようにした。なか

なか良い返事ばかりではなかったが、今後増やしていけるのではないかと思っている。というのも、今年から、後援でFM大阪（ラジオ局）がついており、事前にラジオ番組で宣伝告知ができた。今回は初めてだったが、来年からはそういうところで頑張れると考えている。

C委員：ターゲット層はどういった人を考えているのか。

申請者1：あらゆる人を対象としている。子どもから高齢者までいろんな世代に親しんでもらいたいと考えている。

C委員：出演者もそういったことを配慮して選んでいるのか。

申請者1：親しみやすいポピュラーミュージックが多いが、ジャズ、ブルース、民族楽器など、あらゆるジャンルをカバーしている。

C委員：来場者の見込みとしてエリア的にはどのあたりから来ることを想定しているのか。

申請者1：基本的には市民が非常に大きなウエイトを占めている。大阪府下をはじめ関西近郊からも来ていただいていると考えている。

C委員：そのエリアにもPRしているのか。

申請者1：チラシ・ポスター等の紙媒体と、SNSで発信している。出演者からもアピールしてもらっている。

C委員：同様のイベントと比べて「自分のところが一番」という強みはなにかあるか。将来的な夢もあわせて。

申請者1：街に根付いた親しみやすい音楽イベントであることが強みである。茨木市の観光事業の一つとなれば良いと思っている。

D委員：子ども向けの企画はどういうものがあるか。

申請者1：子どもさんには音楽のある環境でいい思い出を作ってもらえたらということで、北グラウンドでは、おもちゃ作り、簡単な楽器作り、ふわふわドームを企画している。南グラウンド併設の森エリアでは、体験型のクラフトショップの出店と、またロケーション的にピクニック気分を味わってもらえたらと考えている。

C委員：警備体制はどうするのか。

申請者1：実行委員スタッフで行う計画である。外部委託はしていない。

A委員：JR茨木駅の東口がエリアに入っており、近くに大学もあるが、大学生を巻き込んだ企画はあるのか。

申請者1：追手門学院大学、梅花女子大学は以前より協力してもらっている。昨年からは立命館大学の学生にもボランティアで参加してもらっている。

A委員：音楽祭一辺倒であるとマンネリ化も想定されるが、そうならないための工夫として毎年どういったものを盛り込んだりしているのか。

申請者1：マンネリ化防止の一つとして、出演者の集め方を工夫している。スタッフからの声かけのほか、公募をして審査をして出演者を集めている。公募により毎年違った出演者を集めることができていると思う。

【 審 査 】

(2) 茨木市「青い鯉のぼり」プロジェクト（以下申請者2）から事業概要及びアピールポイントについてプレゼンテーションがあった。

<質疑応答>

B委員：つい最近、熊本でも大変な地震があったが、そこに対する支援などはなにか考えているか。

申請者2：(個人的に) 明日から熊本へボランティア活動に行く。災害ボランティア活動は初めてなので現地に行って、何かできることがあるかどうか考える。

D委員：なぜ9月に実施するのか。

申請者2：震災が起こったのが3月で、雪が降ると東北の人は震災を思い出すと現地のプロジェクトの人に聞いている。9月が一番震災を思い出さない時期であるとのことから、9月実施にしたいと考えている。

A委員：コンセプトはとても良いと思うが、この事業は観光客を呼ぶことを大きな柱としている。東北でこのイベントを実施することについての意義はわかりやすいが、このコンセプトのイベントを茨木ですることの意義はなにか。地域の魅力アップになるのか。来場者数2千人予定とあるが、3年後4年後、1万人～2万人を呼ぶイメージは持っているか。

申請者2：東北に行きたくても行けない人はたくさんいるので、そういった人たちが大阪近辺で集まる場が持てればよいと考えている。また、東北の鯉のぼりプロジェクトの代表である伊藤健人君がドラムをやっていて、自分たちのダンスと一緒にイベントができれば良いと思うし、東北で活動している人を呼んで何かできたら良いと考えている。

A委員：大阪代表ということだが、「青い鯉のぼり」プロジェクトというのは、東北と大阪の2拠点だけなのか。

申請者2：いろんなところでやっているが、ステージや出店を兼ねたイベントとして実施しているのは茨木だけである。鯉のぼりをあげている企画は他にもある。

A委員：将来的には「鯉のぼりをたくさんあげる」、「お店を増やす」とあるが、どのように展開して発展させていきたいのか。

申請者2：亡くなった子どもたちのことや、震災のことを忘れないためにもずっと続けていきたいと思っている。(今年の)3月11日も南グラウンドで鯉のぼりをあげたが、鯉のぼりを見て、震災を思い出す人もいた。また、東北に行ってみたく思えるようなきっかけになるように東北のものが食べられるお店を出店するなど、どんなことでも良いので東北とつながれたらと思っている。

A委員：集客数は一定の規模で落ち着いてしまうように感じるが、集客を増やすためにどのような工夫をしていくつもりか。

申請者2：徐々に増えていくと考えている。プロジェクトのことをまだ知らない人もたくさんいるので、もっと知ってもらうことが必要だと思う。有名な芸能人を呼んで、震災に興味のない人にも来てもらいたいと思っている。

C委員：昨年が初めてということだが、前回のうまくいったところ、改善すべきところを教えてほしい。

申請者2：うまくいったところは、ステージ出演者がたくさん集まったこと、大雨のため赤字の出た出店者もあったが、いいイベントだと言ってもらえたことである。良くなかったところは、初めてのイベントで無理をして当日の朝に自分が倒れてしまったことである。次回からは、人に頼めることは頼んで、役割分担をして円滑な運営体制を整えたい。

C委員：東日本大震災のときのように、地震から半年ほど経過すると、地元のものが風評

被害で売れなくなったりすることがあるが、明日から熊本にボランティア活動に行くのであれば、現地で声かけをして熊本の物産コーナーなども作ったらどうか。また、阪神淡路大震災は知っていますか。

申請者2：自分は阪神淡路大震災のときはまだ小さかったので記憶にない。

C委員：関西近隣の人からすると、阪神淡路大震災も大きな出来事であったので、その辺りも考えてもらえたらと思う。

B委員：安全の確保について、警備は「巡回」とあるが、警備は何人くらいの計画であるのか。

申請者2：去年は4人でしていた。今回も4～5人の予定である。

B委員：去年は来場者数2千人で4人の警備、今年来場者数の目標が5千人であるのに少なくないか。

申請者2：警備巡回担当で4人配置のほか、今回は予備でフリーの4～5人作るつもりである。

B委員：地元への配慮で、「音量に注意する」とあるが、イベントの内容として大きな音が出るものはないということか。

申請者2：ダンスをするので、ある程度の音量はある。

B委員：事前に地元に対して説明はするのか。

申請者2：事前にチラシにその旨を記載し、ポスティングする。

B委員：つい最近の熊本、地元の神戸でも震災があったことを踏まえて、地域間の連携をとるような企画を考えてもらえたら良いと思う。

A委員：鯉のぼりの数が昨年16匹ということだが、100匹くらいないと見栄えしないのではないか。

申請者2：実際には東北のプロジェクト本体から借りてきたものもあったので150匹はあげていた。出演者1グループにつき1匹持ってきてもらっていて、集まったのが16匹で、それを寄附した。

C委員：マスコミ等の宣伝を工夫したらもっと鯉のぼりが集まるのではないか。

申請者2：現在関西テレビと交渉中である。

【 審 査 】

6 審査結果

- | | | |
|-----------------------|------------|---------|
| (1) 茨木音楽祭 | 400点中 319点 | ⇒ 採択案件 |
| (2) 茨木市「青い鯉のぼり」プロジェクト | 400点中 259点 | ⇒ 不採択案件 |

<選考基準>

出席委員の評価点合計の65%以上を取得した事業を、採択案件の候補とする。

ただし、上記基準を上回る事業であっても、個人の総得点の1/2(100点÷2=50点)

以下の点数を付けた委員がいる場合は、採択候補案件とはしない。

以上